

展覧会情報

広がる地図文化—京都大学地図コレクション—

会場 京都大学総合博物館

電話075-753-3272

期間 8月19日(水)～9月13日(日)

横浜開港150周年記念企画展 幕末明治の横浜・金沢

会場 神奈川県立金沢文庫

電話045-701-9069

期間 8月6日(木)～10月4日(日)

特別展「地図にみる高岡古城公園の400年」

会場 高岡市立博物館

電話0766-20-1572

期間 8月10日(月)～10月18日(日)

史料の利用と保存—デジタル模写の可能性—

会場 京都市歴史資料館

電話075-241-4012

期間 8月21日(金)～11月22日(日)

特別展「御城下絵図に見る佐賀のまち」

会場 徴古館

電話0952-23-4200

期間 9月14日(月)～11月21日(土)

デジタルマップフェア2009

会場 東京国際フォーラム 展示ホール2

電話03-3485-8121(財日本地図センター)

期間 10月2日(金)～10月3日(土)

地図展2009in北九州

会場 小倉井筒屋パステルホール 新館9F

電話03-3485-8121(財日本地図センター)

期間 10月29日(木)～11月1日(日)

彩の国環境地図作品展 2009

会場 埼玉県環境科学国際センター

電話0480-73-8331

期間 11月13日(金)～11月23日(月)

会場 立正大学熊谷キャンパス

電話048-539-1630

期間 12月2日(火)～12月5日(木) ほか

巡検開催のご案内

■ 横川と坂本宿巡検

平成21年度第2回巡検を10月に開催いたします。今回はバスで横川・坂本宿を訪ねます。

ご案内：伊藤 等先生 (日本大学)

開催日：平成21年10月24日(土)雨天決行

定員他：20名。参加締切は10月9日(金)。

申込み：電話 03-3262-1486 Fax. 03-3234-0872

mail chizujoho@nifty.com のいずれか

集合：東武東上線 川越駅 改札外 9：30 (予定)

ルート：詳細は現在検討中です(以下は見学予定先)。

①碓氷鉄道文化村

②坂本宿(徒歩)

③旧信越本線遺構 など

参加費：5,000円(バス代、資料費含)。なお川越駅までの往復交通費、昼食代は各自ご負担下さい。

ご注意：バスで現地まで移動します。現地もバスで移動する所がありますので、**定員になり次第締め切ります。**

高速道路1,000円政策による渋滞予測によっては、集合時間、予定、行き先等が変更される場合があります。

参加希望者には資料をお送りします。

■ 開港150年の横浜みなとみらい地区巡検

平成21年度第3回巡検を12月に開催いたします。今年6月に完成した「象の鼻パーク」やみなとみらい地区の主要施設を歩きます。

ご案内：伊藤 等先生 (日本大学)

開催日：平成21年12月5日(土)

雨天予備日は12月12日(土)

定員他：20名前後。参加締切は11月24日(火)。

申込み：電話 03-3262-1486 Fax. 03-3234-0872

mail chizujoho@nifty.com のいずれか

集合：みなとみらい線 元町中華街駅

改札外 10：00 (予定)

ルート：詳細は現在検討中です(以下は見学予定先)。

①山下公園付近

②象の鼻パーク

③赤レンガ倉庫(昼食)

④横浜海上防災基地(未定)

⑤工作船展示室 など

参加費：1,000円(資料費含)。なお現地までの往復交通費、昼食代は各自ご負担下さい。

地図絡み

第38回 釧路湿原の縁を忠実にたどる釧網本線

帝京大学理事 井口悦男

東京の街の東半分、武蔵野と下総台地とはさまれた旧利根川の広々とした谷間の江東低地(あるいは東京低地)は、現在、家々ではぼ埋め尽くされ、往年の水田地域、それ以前の低湿地の広がりを見像することは不可能に近い。しかし、時間をかけ北海道の道東、釧路まで来ると、海岸側から埋め立てられ、市街地造成が進められているが、その内側には、丹頂鶴の生息地として知られるなお日本最大の湿地が、かろうじて維持される。一方、蛇行して湿原を流れる釧路川下りのカヤック映像に接することもあり、この湿原の広大さが人々に知られるようになった。しかし、一般的にこの湿原に接するには、湿原の東端、山裾との間一段高い微高地上に忠実にレールを敷いた、そのおかげで連続的に湿原を俯瞰できる、JR釧網本線の車窓からの観察に勝るものはない。昭和30年代頃までは、根室本線と分かれる釧路の次駅「東釧路」から「五十石」まで約40km 1時間ほど、現在では上記したように湿原の海寄りに埋立て市街化、畑地化が進行し、「釧路湿原」から「五十石」までの約20km 30分前後へと短縮されてしまった。動態保存された大型タンク機関車(都市近郊快速列車用)の引く赤帯客車列が、くねくねした路線を行く姿がよく放映されるので、注意すれば片側は釧路湿原と分ろう。

20代後半、現在の外国旅行と同じ気分で津軽海峡を渡り、夜行列車で狩勝峠を越し早朝釧路にたどり着いた。東京から列車乗継2泊を要した遠方の地であった。当時の釧網線列車は、房総や成田線のSLと同じ大正期国産万能花形制式の地方下りを先頭とする貨客混合列車で、高く細い汽笛はわびしさをつのらせた。夏場の釧路湿原の緑が、次の「東釧路」を出ると、さっそく左窓一面に広がりだした。深く茂る草地と点在する低木の中を、見え隠れする釧路川の豊かな水面は蛇行を繰り返かし、自然のまま、人工土手に守られた川ばかりを見ている者には、何とも新鮮で、河川の原始状況を知る感激で一杯であった。曲流点の小芝地にホルスタインの白黒まだら牛のいる姿も、異国風にまぶしく感じた。一方全体として、日本各地の水田地の原形にあたる低湿地の広がりを想定できるのが嬉しかった。

この湿地の先端にあたる深い湾入の跡を物語る上、湿原化以前が偲ばれる海跡湖の「塘路湖」「達古武沼」などが、反対側右窓に望まれ、別の雰囲気を楽しめた。

一方、早春三、四月の湿原では、ベージュ色に薄く雪

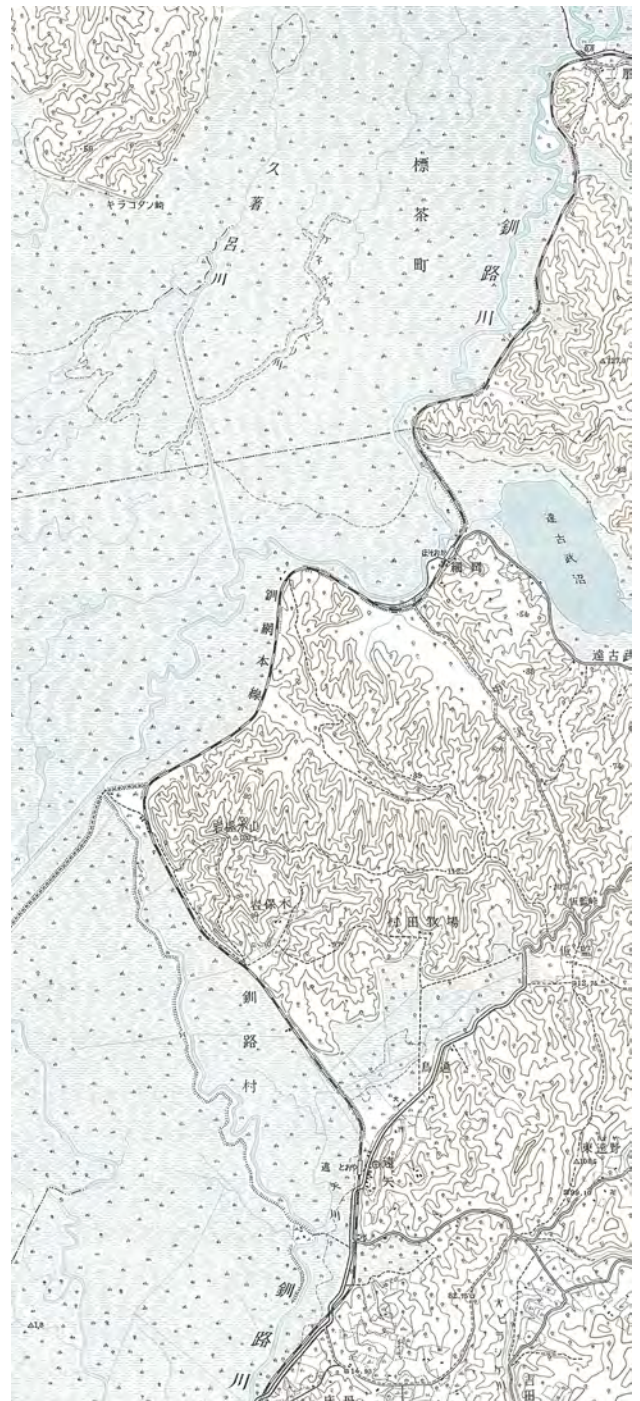


図1 5万分1「大楽毛」昭和30年測図 国土地理院

がまぶされた枯野一面のなか、低い柏の木の間を流る線路際微高地部分では、東国風柏餅を包む大きな枯葉が列車風にゆらめいた。

ニューヨークとボストンとを結ぶ列車の窓越しに、アメリカ東海岸沿いに無数の湿地が豊かな水を湛え、沼畔のロッジに集う人々、ボート遊び、釣などする姿が続いた。ケネディ空港のすぐ南に広大な湿地が残っているし、フランスの地中海沿いには同様に湿地が続き、白馬で駆け抜ける映像の見事さが忘れられない。人口密度の高いこの国では、もう戻せない風景なのだろうか。

(09.8.15)